

埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況 (平成24年度)

大島まり子 長谷川紀美子 山本徳栄 青木敦子

Performance of *Chlamydia trachomatis* serological examination in Saitama Prefecture
(April 2012- March 2013)

Mariko Ohshima, Kimiko Hasegawa, Norishige Yamamoto and Atsuko Aoki

はじめに

性器クラミジア感染症は、*Chlamydia trachomatis*を原因とする感染症で、感染症法による五類感染症として定点からの報告が義務付けられている。埼玉県内の定点からの患者報告数は、平成24年度は1,405名(性感染症患者報告数の51.6%)であり、最も報告数の多い性感染症である¹⁾。また、本感染症は自覚症状が乏しいため、男性・女性ともに無症候の保菌者が多数存在している。蔓延をくい止める最善の策は、無症候感染者を発見することである²⁾。本県では「埼玉県エイズ及びその他の性感染症対策要綱」に基づき、保健所で検査の受付を行い、当所で抗体検査を行っている。今回は、平成24年度におけるクラミジア抗体検査の実施状況を報告する。

対象および方法

- 1 対象期間：平成24年4月～平成25年3月。
- 2 対象者：保健所で実施する「埼玉県エイズ及びその他の性感染症対策要綱」による相談・検査受検者のうち、クラミジア抗体検査を希望した者。
- 3 検査方法：血清を用い、ELISA法(ヒタザイムクラミジア：日立化成工業)によりIgA及びIgG抗体を測定した。

結果判定は、各々の抗体に対する陽性及び陰性対照血清の測定値から算出したカットオフインデックスにより行い、IgA、IgGのいずれか、または、双方の値が陽性的場合に陽性検体とした。

結果及び考察

平成24年4月から平成25年3月までの受検者数は647名であり、受検者の年齢は16歳から80歳であった。

年代別・男女別の受検者数を表1に示した。受検者数が多かったのは、20歳代の236名(36.5%)及び30歳代の

217名(33.5%)であり、これらを合わせると全受検者の約7割を占めていた。男女別では、10歳代及び20歳代で女性が男性より多かったが、他の年代では男性が多かった。全体では、男性400名(61.8%)、女性245名(37.9%)で、男女比は1.6:1で男性が多かった。さらに、2名(0.3%)性別不明の受検者があった。

表1 年代別・男女別の受検者
(平成24年4月～平成25年3月)

年齢(歳)	性別			計(%)
	男性	女性	不明	
16～19	6	13		19(2.9)
20～29	114	120	2	236(36.5)
30～39	134	83		217(33.5)
40～49	76	18		94(14.5)
50～59	21	7		28(4.3)
60～69	38	4		42(6.5)
70～79	10	0		10(1.6)
80～	1	0		1(0.2)
合計	400(61.8)	245(37.9)	2(0.3)	647(100)

抗体別・男女別の抗体検査の結果を表2に示した。抗体陽性率は全体で12.7%であった。男女別では、男性8.5%(34/400)、女性19.6%(48/245)で、女性が高かった。抗体別で見ると、IgA陽性は男性2.0%、女性4.1%、IgA・IgG陽性は男性3.5%、女性7.8%、IgG陽性は男性3.0%、女性7.8%と、いずれも女性の方が高かった。全体の抗体別陽性率は、IgAが2.8%、IgA・IgGが5.1%、IgGが4.8%と、IgAの陽性率が若干低かった。また、抗体陰性数は2名の性別不明者を含めて543名(83.9%)であった。

表2 抗体別・男女別検査結果 (平成24年4月～平成25年3月)

抗体別	男性(%)	女性(%)	合計(%)
IgA陽性	8(2.0)	10(4.1)	18(2.8)
IgA・IgG陽性	14(3.5)	19(7.8)	33(5.1)
IgG陽性	12(3.0)	19(7.8)	31(4.8)
小計	34(8.5)	48(19.6)	82(12.7)
判定保留	14(3.5)	8(3.3)	22(3.4)
陰性	352(88.0)	189(77.1)	543*(83.9)
合計	400(100)	245(100)	647(100)

* 性別不明2名を含む

年代別抗体陽性数を表3に示した。20歳代の236名中39名(16.2%)が最も高率であったが、40歳代の12.8%、50歳代14.3%、10歳代の15.8%と、大きな差は認められなかった。その他の年代である60歳代は42名中3名(7.1%)、30歳代は236名中39名(9.7%)と低率であった。

埼玉県における平成15年度からのクラミジア抗体検査受検者数と陽性率の推移を図1に示した。受検者数は、平成19年度に急増した後は緩やかに減少していたが、平成23年度に増加傾向を示し³⁾、平成24年度は平成23年度とほぼ同数であった。また陽性率は、検体数が急増した平成19年度が最も低く、その後ほぼ横ばいを維持していたが平成24年度は最低の陽性率を示した平成19年度に次ぐ低い値であった。

小野寺らの調査によると、クラミジア陽性率は2007年7.6%⁴⁾、2010年3.3%⁵⁾であり減少している。しかし、性感染症に関する特定感染症予防指針は、性感染症は、患者等が、自覚症状がある場合でも医療機関に受診しないことがあるため、感染の実態を把握することが困難であり、感染の実態を過少評価してしまうおそれがある⁶⁾としている。

性感染症発生動向調査活用のためのガイドラインには、クラミジア感染症は、一度罹患しても免疫が付かず、繰り返し感染し、1年程度で自然にクラミジアが検出されなくなることがあるが、社会への蔓延を防ぐ意味でも早期発見、早期治療が望まれる⁷⁾と記載されている。これらの対策として、啓蒙活動と同時に検査の受診を促すことが重要であると考える。

文献

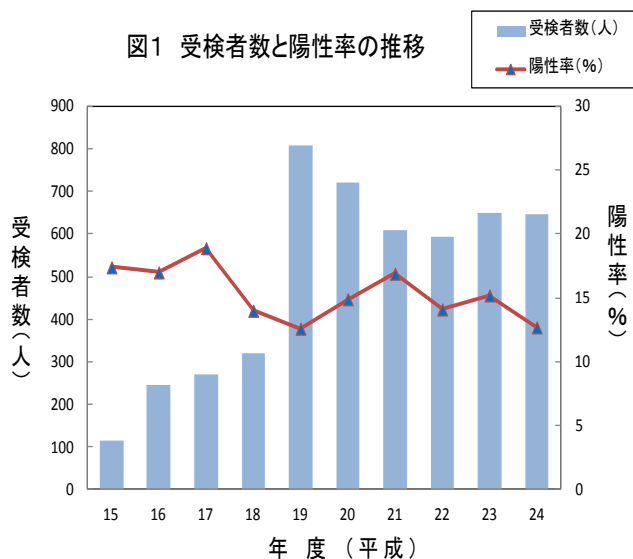
- 1) 埼玉県衛生研究所感染症情報センター：感染症発生動向調査 月報.2013年4月号
- 2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2011：性器クラミジア感染症.日本性感染症会誌, 22, 60-64
- 3) 大島まり子, 長谷川紀美子, 山本徳栄 他：埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況(平成23年度).埼玉県衛生研究所報, 46, 71-72. 2012
- 4) 小野寺昭一：我が国における性感染症の現状と将来.日本臨床, 67, 5-25. 2009
- 5) 小野寺昭一, 萩野員他, 渡辺享宏：若者における無症候感染者の実態調査と性感染症検査の実施体制の構築に関する研究.性感染症に関する予防, 治療の体系化に関する研究班平成22年度総括研究報告. 183-184. 2011
- 6) 厚生科学審議会：性感染症に関する特定感染症予防指針[改正後の全文]
http://jssti.umin.jp/topic.html#mhlw20120119

表3 年代別抗体陽性数

(平成24年4月～平成25年3月)

年齢(歳)	受検者数(人)	抗体陽性数(人)	陽性率(%)
16～19	19	3	15.8
20～29	236	39	16.2
30～39	217	21	9.7
40～49	94	12	12.8
50～59	28	4	14.3
60～69	42	3	7.1
70～79	10	0	0
80～	1	0	0
全体	647	82	12.7

図1 受検者数と陽性率の推移



- 7) 中瀬克己:STIサーベイランス戦略研究. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 性感染症発生動向調査活用のためのガイドライン 自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究(研究代表者 谷口清州), 34, 平成24年11月16日